



園だより

2021年1月号
2021年1月7日発行

新しい年を迎えて一つなぐこと・離すことー

旧年中は新型コロナウイルス感染拡大の中、心身ともに不安のなかで生活することが余儀なくされました。そして現在もその事態は改善する兆しは見えていません。このような生活の中で私たちはたくさんの情報に取り囲まれて日々を過ごしています。何が確かな情報なのかを見極めることも難しい中で、「子育て」について考えていた時、出会ったのが、「子育て四訓」でした。この教えのルーツはいろいろとあるようですが、それはともかくとして、長い間人間が培ってきた「子育て、子育て」の教訓が集約されているように思いました。それは以下のとおりであります。子供の成長を四期に分けて、大人と子どもの関わり方について簡潔に記しています。

***乳飲み子から肌を離すな**

***幼児は肌を離して手を離すな**

***少年は手を離して目を離すな**

***青年は目を離して心を離すな**

わかりやすく、子育ての要点が表現されていると思いました。単純な表現ながら子育てについての深い知恵が秘められていると思いました。日ごろの子育てについて、反省する視点が示されていると思いました。さらに子どもが自立に向かって成長していく、それぞれの過程での関わり方についても示されていると思いました。ところで、このような子どもの成長は、かつては親子だけではなく地域の人たちも加わってそれを担ってきました。しかし時代の変化の中で、子育てが個人の責任へと変わってきました。そして、この度のコロナ感染はそれをさらに強める方向へと進んでいきました。今や、「子育ての個人化（私有化）」から、「子育ての社会化」へと視点を移していくことが大切になってきました。それは、子どもの成長支援の中に、「繋ぐこと」「離すこと」の大切さを位置付けることでもあります。それは親子関係に止まることなく、地域の人たちの協によって、育まれていくものであると考えます。保育園も学童クラブも、児童館も放課後子ども教室、塾もスポーツ教室等も、地域の一員として、「子育て訓」に込められた、子どもの育ちを願う思いを踏まえて、子どもたちと共に歩いていきたいと願っています。



理事長 服部 榮